

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年8月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100872
法人名	医療法人 永寿会
事業所名	グループホーム にここ
所在地	鹿児島県鹿児島市下伊敷一丁目11番3号 (電話) 099-280-8877
自己評価作成日	令和元年6月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和1年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・事業所の1階に病院があり体調の変化にすぐに対応できる。
- ・各ユニットに看護師が配置され、定期検診や病院との連携を図り、緊急時の対応など適切な医療を受けられるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、3階建てビルの2・3階の2ユニットの構成である。1階は母体医療機関になっており、24時間対応の連携体制が構築されている。職員看護師の健康管理と連携が図られ、緊急時の対応等、適切な医療が受けられる支援をしている。
- ・定期的に運営推進会議を開催し地域の関係者が出席する中、ホームの状況報告を行い意見交換や認知症についての情報を発信している。同ビル内の通所リハビリテーションとの合同イベントや保育園児との交流、ボランティアの受け入れ等も行い、地域とは日常的に交流を図っている。
- ・管理者は職員とのコミュニケーションを図り、職員の意見や提案を話し合い、利用者一人ひとりが笑顔でその人らしい生活ができるように、日々のケアに反映させている。身体拘束廃止委員会もあり「身体拘束はしない」をモットーに事例を検討し研修を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に地域の一員として唱っており目の付く場所に提示し全員が朝の申し送り時唱和している。地域との交流体制もある。	理念は事業所内に掲示したり各自のネームプレートやパンフレット等に掲載している。朝の申し送り時に唱和し、昼の情報収集時に振り返っている。職員会議等でも理念を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とまではいかないが民生員さんを行事や運営推進会議に招き交流の核とし地域にある施設ということを大切に考えている。	運営推進会議等で民生委員から地域の行事や情報を得て見物等に出かけたり、地域にて認知症についての情報提供をしている。同法人のデイケア利用者や保育園児との交流・フラダンス等のボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	民生委員を通じ地域の方の認知症に対する理解を得るべく情報を発信している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に1回、運営推進会議を開催しグループホームの生活の様子や課題や改善点についての意見交換を行っている</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の状況やヒヤリハット、事故報告、外部評価の報告等を行い、参加者から多くの意見が出され意見交換をしている。会議での情報を職員で共有してサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>行政との協力関係の重要性を認識し必要な協力関係を継続している</p>	<p>市の担当者には、必要に応じて電話や窓口に出向き、書類更新や相談についても情報を交換して助言を貰っている。福祉担当者とも連携を取っている。市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についての勉強会をミーティングの際に行い全ての職員は身体拘束の認識を持っている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会でマニュアルに沿って年4回、ミーティングの際に勉強会を実施している。事例検討会等で職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束についても日々確認し配慮している。日中の玄関の施錠はせず、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権や虐待の及ぼす影響も勉強を通じて学んでおり、防止できる環境にあり見過ごされることのない環境を整える		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は成年後見制度・権利擁護について研修を受けており必要に応じて活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時には契約書を読み合わせ、疑問点があれば質問できるようにしている。解約や改正が必要になった場合も一方的に運ぶことなく十分な説明を行い納得していただけるようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入口のご意見箱など設置したりご家族が気軽に意見が言えるように全職員の家族とのコミュニケーション作りを指導している。意見に素にミーティング等を開いて改善できる方法を見出せるように努力する。	利用者からは入浴時やくつろいでいる時等、日々の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族とは何でも言える関係作りに努め、面会時や家族会、電話等で意見を聞いている。出された意見を職員で話し合い反映させている。意見箱も設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回ミーティングを開催し意見を出せる機会を作っている。運営・業務の内容や方法も職員間の協議を重視し反映するようにしている。</p>	<p>管理者は毎月のフロアミーティングや全体ミーティング等で意見や提案を聞く機会を設けている。日頃から気軽に話し合い、関係づくりを心がけ、相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。出された提案を職員で協議しケアや行事に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個人面談を行い個人の目標を聞きサポートを行い、一人一人の努力や実績うあ収入へ反映できるようにしている</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修を月1回行い、外部研修参加の紹介を行っている。様々な外部研修に参加しているが今後は内部研修を充実とOJT制度導入を検討する</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修にて同業者との交流の機会がある。相互訪問については今後取り組んでいく予定でありサービスの質の向上に繋がるように努める。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族との事前面談で得た情報を基に、ICFの視点方ご本人や家族の思いを反映したプランを作成し、安心が確保できるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、困っていることや不安な事を聞く機会を設けている。これまでの介護に対して理解要し要望に対しても理解し安心していただけるよう関係を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時優先順位を考え、安心して生活して頂くには何をどのようにしたほうが良いかを考える。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを十分に行い「出来ること」・「残存機能」を理解し物理的環境や心の環境を整える自立支援を行い共同生活が送れるように努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居前より・家族と職員は入居者様に安心・安全・快適に過ごして頂くた為チームであると話している・</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外出や面会に自由を確保しており、今までの生活は保持できるようにしている。</p>	<p>希望を聞いて旧居住地へ行ったり、家族の協力で墓参りや美容室に出かけている。面会も多く、居室でお茶を飲みながら楽しく過ごしている。手紙や電話の取次ぎなども行っている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>普段の職員との会話やレクリエーションを通じて時間や空間を共有するように努めている。入居者様同士が声を掛け合い共同生活を送っている。この関係を継続できるように支援している</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>当法人のサービス利用が終了しても家族からの要望があれば必要な事を支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や何気ない一言、表情・心身の状態から思いや希望を受け止め定期的にモニタリングをすることで思いを反映したケアが出来ているか確認している	アセスメントを参考に、入浴時やリラックス時に話を聞く等、日常の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。定期的なモニタリングで情報を共有している。困難な場合は利用者の視点に立って職員で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居当初に家族や御本人からこれまでの生活について情報収集を行い生活背景や状況を理解できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に入り前ぎ業務日誌に生活日誌・バイタル表に目を通し情報収集をおこないようになっている・現状の把握が出来ていないと良いケアや職員間の連携ができないと考える・		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員に記入したモニタリングを参考に計画作成担当者が総合的な視点でモニタリングを行い介護計画を作成している実施の前に担当者会議を開き協議を重ね介護計画に反映している	職員で聞き取りをして計画案を作成し、本人や家族を含めて担当者会議を行い個々に応じた介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、6ヶ月毎に見直している。状況変化時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施したケアや本人の思いや状況を記録し項目の欄からでも目を引くようにし必要な情報の把握やケアや計画に見直しに薬立つようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の思いや状況の変化を把握しながらケアを行っている。全職員からケアの意見を聞くことで入居者の思いや考えを多角的に捉え柔軟なサービスの提供につながる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや保育園の慰問等を行っている・入居者の視点のケアマップの作成を考えている集団ケアと個別ケアの両立が課題である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1階に病院があり定期的に受診をしている。入居者の状態変化にもすぐに対応できる体制である。	本人や家族の希望でほとんど母体医療機関をかかりつけ医としている。母体医療機関の週1回の往診や必要時には歯科の訪問診療で対応している。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	各ユニットに看護職を配置している。病院の看護師との連携を取り入居者の状態について情報交換を行っている		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時サマリーを作成し情報の提供を行っている。入院後はお見舞いに行くなどし状態の確認を行い入院先の病院とも連携をとり入居者様にとって安心して生活が出来るためにどのようなケアが必要か情報交換を行っている		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	重度化の介護について同意を得ている・重度化になった場合は本人・家族との話し合いの上ケアプランを作成し支援を行う予定である。	契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意書を貰っている。状況変化に伴い主治医より状況説明を行っている。本人や家族の意向を随時確認しながら、家族と方向性を確認し取り組んでいる。職員は事例に基づき対処法を学習している。看取りの事例もある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	職員が個々に救急法(応急手当)について外部の研修に参加したりしている・急変時のマニュアルに基づき行動できるように「している。又、事例に基づき対象法を指導している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し年2回の避難訓練の計画・実施し消防署や消防設備会社から避難方法と必要な知識の習得の為の指導を受けた。</p>	<p>消防署立会いのもとで年1回、自主で年1回、昼夜想定避難訓練を実施している。避難経路の確認や消火器の取り扱いなど確認をしている。定期的に業者による設備点検も実施している。スプリンクラーや緊急通報装置も設置しており、水、米、缶詰、レトルト食品などの備蓄もある。訓練は地域住民にも呼びかけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員がお互い声を掛け合い、誇りや人格の尊重・尊厳の保持、プライバシーの保護についての意識付けを行っている。	マニュアルに沿って勉強会を行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに取り組んでいる。入浴やトイレ誘導、おむつ交換などでは羞恥心に対する配慮を行っている。名前や写真の掲載も許可を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶や食事の時間、レクリエーションなど折に触れてコミュニケーションをとっている。普段の会話を大切にすることが思いの表出となり自己決定に繋がるケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が、それぞれの得意分野を活かし入居者のペースや趣向・希望を大切にしながら入居者の生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その人がその日に着たい服を共に選び整髪などで共に選び、入居者の意向を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の誕生日には、その方に食べたいメニューでお祝いしている。又、季節を感じる事の出来るメニューを心掛けている。</p>	<p>嗜好に配慮し、旬の食材で、個々に応じた食事形態を工夫している。味見や茶碗洗い、テーブル拭き等、職員と一緒にやっている。一人ひとりの誕生日のお祝いや敬老会には外注弁当で家族と一緒に食事会を行っている。季節の行事食等も食事が楽しみなものになるよう工夫している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食べる量や形態はその人に合わせアレルギーのある方は他の食材にするなどしている。栄養のバランスや水分摂取量は一日の摂取量を満たすようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>職員が口腔清拭の重要性を認識し毎食後に入居者の応じて声掛けを行ったり自立支援の範囲内で支援している</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄は尊厳保持の繋がることなので認知症の進行と関係性も考慮しながら自立や排泄の支援を行う。</p>	<p>排泄チェック表で排泄パターンを把握し、声かけや誘導によるトイレでの排泄の自立を支援している。排泄用品は個々に合わせて対応し、自立に向けた取り組みを行っている。夜間にはポータブルトイレを利用するなど個々に応じて対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が心身に及ぶ影響を職員が理解し排便チェックを毎日行い飲食物の工夫や、集団での運動や個人に合わせた生活リハビリを取り入れて予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者の意向により男性と女性に入浴日を気になる方は分けている。入浴順番の入居者の意向に沿うような雰囲気作りに努めている。	入浴は週2回、定期的に行い個人の人調や希望にそって柔軟に対応し、体調の悪い時等は清拭を行ったりしている。入浴を拒む利用者にも声かけや時間調整など、職員間で連携して、状況改善に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のこれまでの生活歴を尊重し安心して眠れる環境を提供している。室温や湿度にもご本人の体調や個性を重視し調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週1回の定期診察の際、院長が状態により服薬の目的を入居者や職員に伝え職員には副作用・用法・用量についての指導があり不在者にはノートを通じて申し送っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせ自立支援を心掛け洗濯物を畳む事等、それぞれが出来ることの中から感割を見出すようにしている。レクリエーションや散歩など気分転換の支援も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常生活の中で散歩を行ったり花見等の外出レクリエーションもあり今後も機会を増やして行っていく方針である。又、家族と外出や外泊することアル。	日常的には周辺の散歩をして近所の人達と挨拶を交わしている。計画を立て、花見等の外出や戸外でのレクリエーション・ドライブに出かけている。家族の協力で外食や墓参りなども行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に預かり金として小口現金を管理者が預かっている。収支については各人の出納帳を付けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をしたいというときは家族のその時の状況を考慮しながら支援する。携帯電話の所持については他の入居者への影響を説明し家族の同意を得て承認している。郵送については家族にお願いする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには入居者と職員で共同制作した張り絵を飾っている。テーブルの配置変えを行い他者との交流もできるようにしている、季節感を感じて頂くように工夫している	共用空間は、採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。壁には行事の写真や利用者と職員で共同制作した作品がある。季節感を大事にした飾りつけもされている。台所も開放的で会話も楽しめる。ソファも多く置いてあり、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士交流が図れるようなレクリエーションを行ったりホールのソファやテーブル等で入居者同士が談笑している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって馴染みの物を持参して頂きこれまでの生活環境を崩さないように配慮している。毎朝の清掃や週1回の寝具交換も行っている	各居室にエアコン・介護用ベッド・タンス・戸棚が設置されている。寝具類はリースで週1回の交換である。家族の写真や位牌・カセット・ぬいぐるみ等が置かれ、馴染みの物が身近にあり、安心して落ち着ける部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の個性や身体的機能を理解し居室を提供し日々の状態の変化を観察し状況に応じて福祉用具のあっようを行い、安心・安全を心掛けている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない